

【今日の説教から】

イエス様は「なぜおじ惑っているのか。どうして心に疑いを起すのか」と語られましたが、そういう疑いや惑いが弟子たちの間に、二千年前の復活の朝に充満していました。

そこでイエス様は、「聖書を悟らせるために彼らの心を開いて言われた」(45 節)とあります。これは直訳しますと、「御言葉を理解するところの彼らの心、思い、動機、態度、意志、理解力と識別力を開いた」という事になります。私たちが心をかたくなにして殻に閉じこもり、信仰の心を閉ざすのは、実に御言葉を理解しようとする思い、理由、動機、意図、意志、態度の欠如、それらの心が閉ざす時に起こるのだ、つまり御言葉を理解しようとする熱意や思いや態度が薄れるときに私たちは横道に逸れてしまうのだということが分かります。

イエス様は「聖霊は、あなたがたにすべてのことを教え、またわたしが話しておいたことを、ことごとく思い起させるであろう」(ヨハネ 14:26)と語られました。イエス様が語られたこと、すなわち御言葉を弟子たちが忘れたことが彼らの混乱の原因でした。

「見よ、わたしの父が約束されたものを、あなたがたに贈る」と主は言われましたが、御言葉を思い起こさせる、御言葉への情熱を燃やしてくださる方こそがまさしく、私たちの生き方を導く力となるのです。「もしわたしたちが御霊によって生きるのなら、また御霊によつて進もうではないか」(ガラテヤ 5:25)

皆様、おはようございます。新緑が目に優しく、瑞々しく、その透き通るような緑の美しさが青空に映える季節です。緑は次第に濃く変わり、いよいよ暑さも増してまいりますが、寒暖の差の激しい折、皆様お元気にお過ごしでしたか。

いよいよ 5 月に入りました。暖かく、過ごしやすい季節となりました。

私たちは復活の主の出来事を喜び祝いました。しかし二千年前のイースターは混乱の朝であったことを知りました。

エマオの途上で二人の弟子にお現われになったイエス様は、同じころペテロらもお現われになったと、それぞれの主に出会う出来事を分かち合い、復活の主を信じて喜びの湧きあがる弟子たちの姿がありました。そんな中、イエス様はその弟子たちの只中にお現われになりました。

24:36 こう話していると、イエスが彼らの中にお立ちになった。〔そして「やすかれ」と言われた。〕

24:37 彼らは恐れ驚いて、靈を見ているのだと思った。

死んだはずの主が本当に復活して現れ、確かに主ご自身であったという事を喜んでいたはずの弟子たちでしたが、いざ自分の目の前のこととなるとわっと驚き恐れて、しかも戦慄の、心わななく、心が恐れに満たされる出来事としてとらえられるという事は、私たち人間にと

って興味深い出来事です。私たちは極度に忘れっぽいのではないかと思います。つい先ほど語られたこと、つい先ほど見た輝かしい主の出来事など、出エジプトの後の民を見ても分かれますが、すぐに忘れて不安になったり道に迷ったりするのです。

24:38 そこでイエスが言われた、「なぜおじ惑っているのか。どうして心に疑いを起すのか。

羊は極度に視力が弱い動物であると聞いたことがあります。ですから群れの前の羊を見て無批判にその前の羊の姿だけを見てついて行ってしまうのだと聞きます。それを利用して羊飼いたちは群れを導くのかもしれません、何かの拍子にパニックになった先頭の羊が崖でも転がり落ちるものならば、それに続いて多くの羊が落ちてしまうという事が起こりかねないです。

おじ惑ったり、心に疑いを起こしたり、見ているのによく見えていず、聞いているのに聞こえず、すぐに恵み深い出来事を忘れて恐れたり、疑ったりする、それが私たち人間の姿であり、神様はそんな私たちを事あるごとに忍耐強くお導きになっておられるのです。

24:39 わたしの手や足を見なさい。まさしくわたしなのだ。さわって見なさい。靈には肉や骨はないが、あなたがたが見るとおり、わたしにはあるのだ」。

24:40 [こう言って、手と足とをお見せになった。]

24:41 彼らは喜びのあまり、まだ信じられないで不思議に思っていると、イエスが「ここに何か食物があるか」と言われた。

24:42 彼らが焼いた魚の一きれをさしあげると、

24:43 イエスはそれを取って、みんなの前で食べられた。

このように、お心を碎いて忍耐強く見せ、語られ、私たちの目を引き付け、耳を傾けさせ、主は正しい方向へ私たちをお導きくださるのでした。

24:44 それから彼らに対して言われた、「わたしが以前あなたがたと一緒にいた時分に話して聞かせた言葉は、こうであった。すなわち、モーセの律法と預言書と詩篇とに、わたしについて書いてあることは、必ずことごとく成就する」。

さあ、イエス様は大切なことを再びお語りになられました。

「わたしが以前あなたがたと一緒にいた時分に話して聞かせた言葉は、こうであった。すなわち、モーセの律法と預言書と詩篇とに、わたしについて書いてあることは、必ずことごとく成就する」。

これは再三弟子たちに話された苦難と復活の予告の内容であり、またエマオの途上で弟子たちの心を熱く燃やしたイエス様のお話そのものでした。答えはイエス様のお言葉と旧約聖書の中にあるという事です。私たちはそこに着目すべきであり、目に見えるところ、耳に聞こえるところにあって恐れず、疑わず、聖書に聞き、神様のなさった御業に目を留めるべきことが語られたのです。

24:45 そこでイエスは、聖書を悟らせるために彼らの心を開いて

24:46 言われた、「こう、しるしてある。キリストは苦しみを受けて、三日目に死人の中からよみがえる。

24:47 そして、その名によって罪のゆるしを得させる悔改めが、エルサレムからはじまって、もろもろの国民に宣べ伝えられる。

24:48 あなたがたは、これらの事の証人である。

そしてイエス様は「聖書を悟らせるために彼らの心を開いて」下さいました。

これは直訳しますと、「御言葉を理解するところの彼らの心、思い、動機、態度、意志、理解力と識別力を開いた」という事になります。私たちが心をかたくなにして殻に閉じこもり、信仰の心を閉ざすのは、実に御言葉を理解しようとする思い、理由、動機、意図、意志、態度の欠如、それらの心が閉ざす時に起こるのだ、つまり御言葉を理解しようとする熱意や思いや態度が薄れるときに私たちは横道に逸れてしまうのだということが分かります。

イエス様は「聖霊は、あなたがたにすべてのことを教え、またわたしが話しておいたことを、ことごとく思い起させるであろう」(ヨハネ 14:26)と語られました。イエス様が語られたこと、すなわち御言葉を弟子たちが忘れたことが彼らの混乱の原因でした。

「キリストは苦しみを受けて、三日目に死人の中からよみがえる。そして、その名によって罪のゆるしを得させる悔改めが、エルサレムからはじまって、もろもろの国民に宣べ伝えられる。」というこの出来事が、私たちが本当に見て、聞こうとして、心を開き、目を開き、耳をそばだて最も大切なこととして私たちの心に受けるべき言葉です。ここに私たちはこの理解のために心を寄せて、意志をもって、洞察力を働かせて注目全てであることを知らされます。そこに向かって、その最も大切なことに向かって主は私たちの目を開かせてくださるのです。私たちが生きていくにあたって、考えるにあたって、私たちが手本にすべきは何か。私たちが耳を傾けるべきものは何か。それが、「キリストは苦しみを受けて、三日目に死人の中からよみがえる。そして、その名によって罪のゆるしを得させる悔改めが、エルサレムからはじまって、もろもろの国民に宣べ伝えられる。」という主の贖いの愛であり、

救いであり、宣教であることがここに語られているのです。

24:49 見よ、わたしの父が約束されたものを、あなたがたに贈る。だから、上から力を授けられるまでは、あなたがたは都にとどまっていなさい」。

聖霊です。これらイエス様が語られたことを後々私たちに理解できるように働いてくださるのが私たちのうちに住んでいてくださる聖霊です。

ヨハネ 14:12 よくよくあなたがたに言っておく。わたしを信じる者は、またわたしのしているわざをするであろう。そればかりか、もっと大きいわざをするであろう。わたしが父のみもとに行くからである。

14:13 わたしの名によって願うことは、なんでもかなえてあげよう。父が子によって栄光をお受けになるためである。

14:14 何事でもわたしの名によって願うならば、わたしはそれをかなえてあげよう。

14:15 もしあなたがたがわたしを愛するならば、わたしのいましめを守るべきである。

14:16 わたしは父にお願いしよう。そうすれば、父は別に助け主を送って、いつまでもあなたがたと共におらせて下さるであろう。

14:17 それは真理の御霊である。この世はそれを見ようともせず、知ろうともしないので、それを受けることができない。あなたがたはそれを知っている。なぜなら、それはあなたがたと共におり、またあなたがたのうちにいるからである。

14:18 わたしはあなたがたを捨てて孤児とはしない。あなたがたのところに帰って来る。

14:19 もうしばらくしたら、世はもはやわたしを見なくなるだろう。しかし、あなたがたはわたしを見る。わたしが生きるので、あなたがたも生きるからである。

14:20 その日には、わたしはわたしの父により、あなたがたはわたしにより、また、わたしがあなたがたにおることが、わかるであろう。

14:21 わたしのいましめを心にいだいてこれを守る者は、わたしを愛する者である。わたしを愛する者は、わたしの父に愛されるであろう。わたしもその人を愛し、その人にわたし自身をあらわすであろう」。

14:22 イスカリオテでない方のユダがイエスに言った、「主よ、あなたご自身をわたしたちにあらわそうとして、世にはあらわそうとされないのはなぜですか」。

14:23 イエスは彼に答えて言われた、「もしだれでもわたしを愛するならば、わたしの言葉を守るであろう。そして、わたしの父はその人を愛し、また、わたしたちはその人のところに行って、その人と一緒に住むであろう。

14:24 わたしを愛さない者はわたしの言葉を守らない。あなたがたが聞いている言葉は、わたしの言葉ではなく、わたしをつかわされた父の言葉である。

14:25 これらのことは、あなたがたと一緒にいた時、すでに語ったことである。

14:26 しかし、助け主、すなわち、父がわたしの名によってつかわされる聖霊は、あなたがたにすべてのことを教え、またわたしが話しておいたことを、ことごとく思い起させるであろう。

14:27 わたしは平安をあなたがたに残して行く。わたしの平安をあなたがたに与える。わたしが与えるのは、世が与えるようなものとは異なる。あなたがたは心を騒がせるな、またおじけるな。

私たちはこの内住の聖霊と共に生きているのです。ですから私たちの邪な心、自分勝手な心、人を許せない心の冷たさ、無慈悲、無関心、怠惰、それらの心を、同じく私たちの心の中にいる聖霊様と同じ部屋に留めているという事は、どんなにか聖霊様を悲しませることになるのでしょうか。

エペソ 4:13 わたしたちすべての者が、神の子を信じる信仰の一致と彼を知る知識の一致と到達し、全き人となり、ついに、キリストの満ちみちた徳の高さにまで至るためである。

4:14 こうして、わたしたちはもはや子供ではないので、だまし惑わす策略により、人々の悪巧みによって起る様々な教の風に吹きまわされたり、もてあそばれたりすることがなく、

4:15 愛にあって真理を語り、あらゆる点において成長し、かしらなるキリストに達するのである。

4:16 また、キリストを基として、全身はすべての節々の助けにより、しっかりと組み合わされ結び合わされ、それぞれの部分は分に応じて働き、からだを成長させ、愛のうちに育てられていくのである。

4:17 そこで、わたしは主にあっておごそかに勧める。あなたがたは今後、異邦人がむなし心で歩いているように歩いてはならない。

4:18 彼らの知力は暗くなり、その内なる無知と心の硬化とにより、神のいのちから遠く離れ、

4:19 自ら無感覚になって、ほしいままにあらゆる不潔な行いをして、放縱に身をゆだねている。

4:20 しかしあながたは、そのようにキリストに学んだのではなかった。

4:21 あなたがたはたしかに彼に聞き、彼にあって教えられて、イエスにある真理をそのまま学んだはずである。

4:22 すなわち、あなたがたは、以前の生活に属する、情欲に迷って滅び行く古き人を脱ぎ捨て、

4:23 心の深みまで新たにされて、

4:24 真の義と聖とをそなえた神にかたどって造られた新しき人を着るべきである。

4:25 こういうわけだから、あなたがたは偽りを捨てて、おのれの隣り人に対して、真実を語りなさい。わたしたちは、お互に肢体なのであるから。

4:26 怒ることがあっても、罪を犯してはならない。憤ったままで、日が暮れるようであってはならない。

4:27 また、悪魔に機会を与えてはいけない。

4:28 盗んだ者は、今後、盗んではならない。むしろ、貧しい人々に分け与えるようになるために、自分の手で正当な働きをしなさい。

4:29 悪い言葉をいっさい、あなたがたの口から出してはいけない。必要があれば、人の徳を高めるのに役立つような言葉を語って、聞いている者の益になるようにしなさい。

4:30 神の聖靈を悲しませてはいけない。あなたがたは、あがない日のために、聖靈の証印を受けたのである。

4:31 すべての無慈悲、憤り、怒り、騒ぎ、そしり、また、いっさいの惡意を捨て去りなさい。

4:32 互に情深く、あわれみ深い者となり、神がキリストにあってあなたがたをゆるして下さったように、あなたがたも互にゆるし合いなさい。

神様は私たちを愛するがゆえに、私たちが憎しむべき敵と仲良くしている姿を私たちが神様に見せるならば、神様はどのように思われるでしょうか。それはやるせない、妬ましい心だと聖書は語ります。神様は妬むほどに私たちを愛しておられるのです。

ヤコブ 4:1 あなたがたの中の戦いや争いは、いったい、どこから起るのか。それはほかではない。あなたがたの肢体の中で相戦う欲情からではないか。

4:2 あなたがたは、むさぼるが得られない。そこで人殺しをする。熱望するが手に入れることができない。そこで争い戦う。あなたがたは、求めないから得られないのだ。

4:3 求めても与えられないのは、快樂のために使おうとして、悪い求め方をするからだ。

4:4 不貞のやからよ。世を友とするのは、神への敵対であることを、知らないか。おおよそ世の友となろうと思う者は、自らを神の敵とするのである。

4:5 それとも、「神は、わたしたちの内に住まわせた靈を、ねたむほどに愛しておられる」と聖書に書いてあるのは、むなしい言葉だと思うのか。

4:6 しかし神は、いや増しに恵みを賜う。であるから、「神は高ぶる者をしりぞけ、へりくだる者に恵みを賜う」とある。

4:7 そういうわけだから、神に従いなさい。そして、悪魔に立ちむかいなさい。そうすれば、彼はあなたがたから逃げ去るであろう。

4:8 神に近づきなさい。そうすれば、神はあなたがたに近づいて下さるであろう。罪人もよ、手をきよめよ。二心の者どもよ、心を清くせよ。

4:9 苦しめ、悲しめ、泣け。あなたがたの笑いを悲しみに、喜びを憂いに変えよ。

4:10 主のみまえにへりくだれ。そうすれば、主は、あなたがたを高くして下さるであろう。

私たちが主から再び「なぜおじ惑っているのか。どうして心に疑いを起すのか。」と言われないために、主が私たちの目を開いてくださり、御言葉に目を開き、御言葉の悟りのために目を開いてくださったことを思い起こしましょう。約束の御靈、助けてである御靈に従って進みたいと心から願うのです。

ガラテヤ 5:16 わたしは命じる、御靈によって歩きなさい。そうすれば、決して肉の欲を満たすことはない。

5:17 なぜなら、肉の欲するところは御靈に反し、また御靈の欲するところは肉に反するからである。こうして、二つのものは互に相さからい、その結果、あなたがたは自分でしようと思うことを、することができないようになる。

5:18 もしあなたがたが御靈に導かれるなら、律法の下にはいない。

5:19 肉の働きは明白である。すなわち、不品行、汚れ、好色、

5:20 偶像礼拝、まじない、敵意、争い、そねみ、怒り、党派心、分裂、分派、

5:21 ねたみ、泥酔、宴樂、および、そのたぐいである。わたしは以前も言ったように、今も前もって言っておく。このようなことを行う者は、神の国をつぐことがない。

5:22 しかし、御靈の実は、愛、喜び、平和、寛容、慈愛、善意、忠実、

5:23 柔和、自制であって、これらを否定する律法はない。

5:24 キリスト・イエスに属する者は、自分の肉を、その情と欲と共に十字架につけてしまったのである。

5:25 もしわたしたちが御靈によって生きるのなら、また御靈によって進もうではないか。

5:26 互にいどみ合い、互にねたみ合って、虚栄に生きてはならない。

ローマ 8:26 御靈もまた同じように、弱いわたしを助けて下さる。なぜなら、わたしたちはどう祈ったらよいかわからないが、御靈みずから、言葉にあらわせない切なるうめきをもつて、わたしたちのためにとりなして下さるからである。

8:27 そして、人の心を探り知るかたは、御靈の思うところがなんであるかを知っておられる。なぜなら、御靈は、聖徒のために、神の御旨にかなうとりなしをして下さるからである。

8:28 神は、神を愛する者たち、すなわち、ご計画に従って召された者たちと共に働いて、万事を益となるようにして下さることを、わたしたちは知っている。

◇祈祷；天の父なる神様、今日の礼拝を感謝します。

神様は、私たちの心を、聖書の言葉を理解しようとすることへの熱意へと導くために約束の聖霊を与えてくださり、聖霊様は私たちの心の中に住まわれ、忍耐と共に私たちの心の行方を祈り導いていてくださいますことをありがとうございます。どうぞあらゆる苦しめる方々を神様の救いと平安の中にお導き下さい。私たちの家族と、地域の方々を祝福して下さい。私たちをお用い下さい。主イエス様の御名によって祈ります。アーメン